

みみちゃん通信 NO.4 岐聖大ふぞく幼稚園 発行

梅雨まっ盛り。幼稚園ではプール開きをしたものの、なかなか水遊びを楽しむことができません。砂、水、泥んこは子どもの遊びに欠かせないもので、感触をからだ全体で味わいながら遊びに没頭する子どもの表情は実に生き生きとしています。晴れ間には園庭で出てシャボン玉や泥団子作り、型抜き、水たまりにも足を入れてバシャバシャと遊んでみたいと思っています。



そして、園庭ではいろんな野菜がすくすく育っています。花が咲いてかわいい実も生り始めましたので、ちょっと気にして見てくださいね。

ウサギ小屋の隣の畑では...

きゅうり・トマト・なす・ピーマンが実をつけました。子ども達が立て札に絵と文字で野菜の名前を書き記しました。



ベランダへのネットに登るツルの正体は...

暑さに強い沖縄のあさがお「オーシャンブルー」とチャンブルーでおなじみの「ゴーヤ」を交互に植えました。夏にふさわしい花と実の咲き誇りが楽しみです。

ベランダのミニトマト...年長さんが育てたミニトマトの実が赤く色づき始め、ちぎっては家に持ち帰っています。夏休みになったら鉢ごと家に持ち帰り、夏の間、たくさん収穫できるといいですね。

駐車場の畑には...

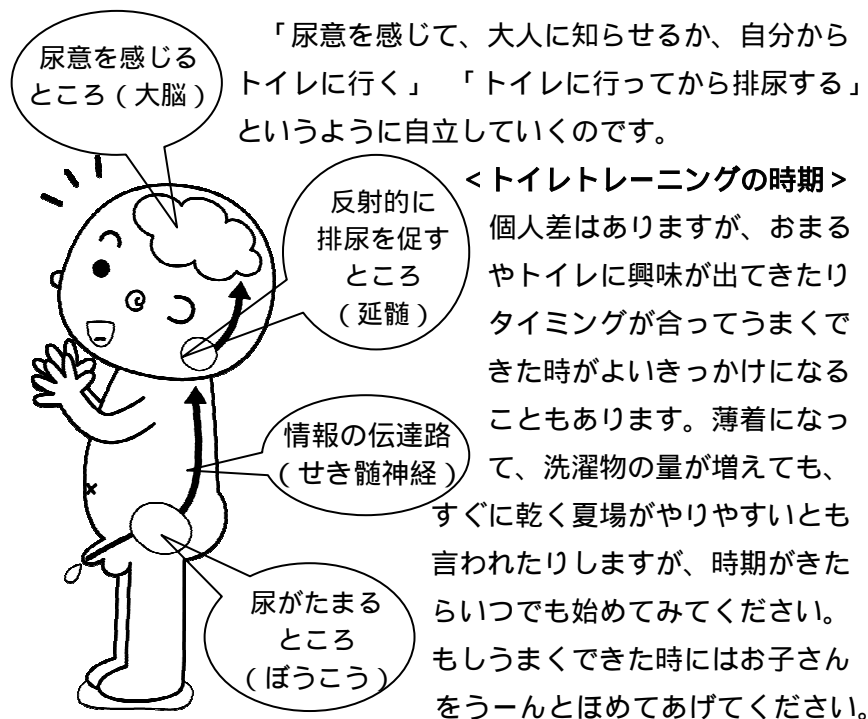
年長さんが田植えをしてお米を育てています。その隣にはサツマイモを植えました。夏の間、どのくらい生長するのかお楽しみに！

知っておこう！トイレトレーニング

排泄の自立には個人差があり、入園までにオムツが外れない子どもいます。大人が必要以上に焦ったり、心配したりすることなく、子どもの成長に合わせてゆったりと進めていきましょう。

<排尿のメカニズム>生まれたばかりの赤ちゃんは、大脳が未発達なため尿意は感じず、ぼうこうに尿がたまると延髄の反射で尿がでます。その後、一人歩きができ、言葉を話すなどの成長に従い、大脳の働きが活発になることで尿意を感じるようになります。神経回路が発達すると「ぼうこうがいっぱいになるまで尿をためておく」

「尿意を感じて、大人に知らせるか、自分からトイレに行く」「トイレに行ってから排尿する」というように自立していくのです。



<トイレトレーニングの時期>

個人差はありますが、おまるやトイレに興味が出てきたりタイミングが合っとうまくできた時がよいきっかけになることもあります。薄着になって、洗濯物の量が増えても、すぐに乾く夏場がやりやすいとも言われたりしますが、時期がきたらいつでも始めてみてください。もしうまくできた時にはお子さんをうーんとほめてあげてください。

(学研 「ほけんだより 12か月」より)